

地球規模の環境破壊が叫ばれるようになって久しいが、このようなグローバルな環境問題も突き詰めれば地域から発生しており、その問題解決は足下の環境を見直す中に糸口が見つかると思われる。生物種の絶滅の問題、それに関わる環境破壊（生育地の破壊）も年々深刻化しているが、これも足下で進行している問題である。

最初にも述べたとおり、佐賀平野のクリークは人間がつくったものであるが、人間が手を入れることにより生き物の生活環境としても良好な状態が維持されていた。今日よく話題にあがる「ビオトープ」の良好な例である。

クリークの機能的な面（農業）と人間の日常生活との関わり方、生き物の生活環境としてのクリーク、そこにどのような生き物がいて今日それがどんな状態であるのか、なぜそうなったのか……佐賀平野のクリークは絶好の環境教材である。一種独特な生態系を形成していた佐賀平野のクリークの本来の姿を、きちんと子供たちに伝えていき、そこに問題意識を芽生えさせるのが、佐賀にすんでいる大人たち（特に教育にたずさわる者）の使命ではないだろうか。

#### 【文献リスト】

##### <1996補遺>

岡島一允, 1996. 堺市内でオニバスを観る. 堺植物 (36): 9-10.

##### <1997—(1)>

市川憲平, 1997. 兵庫県の水草の現状. 「山の上の魚たち」(姫路市立水族館だより) 30: 2-4.

角野康郎, 1997. 水辺の環境と絶滅危惧生物—水草を中心に. 『遺伝』別冊(9): 78-85.

国井秀伸・下田路子・角野康郎, 1997. 霧多布湿原とその周辺の水域における水生フローラ. Kiritapp Reports~霧多布湿原センター紀要~ 1: 1-7.

小林禱樹・黒崎史平・藤本義昭, 1997. 舞子ゴルフ場周辺湿地の植物相とその保全のとりくみ. 兵庫の植物(7): 41-51.

小堀 弘, 1997. ムジナモトの出会いその後. 食虫植物研究会誌 48: 38-39.

小宮定志, 1997. 日本産 *Utricularia* 属の検索表. 食虫植物研究会誌 48: 15-17.

小宮定志・外山雅寛・柴田千晶・勝俣員伊, 1997. 北海道産の食虫植物. 日本歯科大学紀要(一般教育系)(26): 153-188.

菅村定昌, 1997. ミズアオイの保護に取り組んで. 兵庫の植物(7): 115-123.

瀬野純一, 1997. 新茶屋湿原及び上新茶屋湿原について. 食虫植物研究会誌 48: 1-6.

藤井伸二, 1997. 堺市金岡町「寺池」のオオミクリ. Nature Study 43: 2.

山本一清, 1997. 相生のシバナと北海道のシバナについて(1). 兵庫の植物(7): 33-36.

Hamabata, E. 1997. Distribution, stand structure and yearly biomass fluctuation of

*Elodea nuttallii*, an alien species in Lake Biwa -Studies of submerged macrophyte communities in Lake Biwa (3)- Jpn. J. Limnol. 58: 173-190.

Kadono, Y., T. Nakamura and T. Suzuki, 1997. Genetic uniformity of two aquatic plants, *Egeria densa* Planch. and *Elodea nuttallii* (Planch.) St. John, introduced in Japan. Jpn. J. Limnol. 58: 197-203.

Nohara, S., 1997. Growth characteristics of *Nelumbo nucifera* Gaertn. in response to water depth and flooding. Ecol. Res. 12: 11-20.

Shimoda, M., 1997. Differences among aquatic plant communities in irrigation ponds with differing environments. Jpn. J. Limnol. 58: 157-172.

Tsuchiya, T., W. Tanaka and I. Ikusima, 1997. Effects of vapor pressure difference on leaf conductance and net photosynthesis of an emergent plant, *Zizania latifolia*. Jpn. J. Limnol. 58: 191-196.

Ueda, K., T. Hanyuda, A. Nakano, T. Shiuchi, A. Seo, H. Okubo and M. Hotta 1997. Molecular phylogenetic position of Podostemaceae, a marvelous aquatic flowering plant family. J. Plant Res. 110: 87-92.

Yamasaki, S., 1997. Rhizome formation and survival of *Zizania latifolia* (Griseb.) Stapf. under limited oxygen supply in deep water. Jpn. J. Limnol. 58: 205-214.